

年月日 平日＝2011年06月09日（木・晴）
休日＝2011年08月28日（日・晴）

回数 2010期・第14回平日巡礼
2011期・第2回平日巡礼

参加者 平日＝19名、休日＝15名

- 巡礼寺・順 ●三番札所 最勝院（さいしょういん）
- * 本尊・釈迦牟尼仏
 - * ご本尊真言 のうまく さんまんだ ぼだなん ばく
 - * 山号・妙高山 * 宗派・曹洞宗（最勝院 本山）
 - * 草創・1433（天文元年）
 - * 最勝院を頂点に1400ヶ寺を超える末寺を持ち、それなりに境内も広く格式の高い由緒ある寺院です。
- 四番札所 城富院（じょうふいん）
- * 本尊・聖観世音菩薩
 - * ご本尊真言 おん ありるきや そわか
 - * 山号・泉首山 * 曹洞宗（最勝院末）
 - * 草創・1542（天文12年）
 - * 北條家五代の祈願所として開創される。草創時は別の場所でしたが1671（寛文11年）豪雨による山崩れで埋没、1681（延宝9年）現在地に再興。
- 五番札所 玉洞院（ぎょくとういん）・・・と、が濁らない
- * 本尊・十一面観世音
 - * ご本尊真言 おん まか きやろにきや そわか
 - * 山号・吉原山 * 曹洞宗（最勝院末）
 - * 草創・不明
 - * 残念な事に 火災で一切の資料を焼失し沿革は不明ですが、草創当時は密教寺院であったが1583（天正十一年）最勝院十世宗清により曹洞宗に改宗する。
- 六番札所 金剛寺（こんごうじ）
- * 本尊・大日如来

- * ご本尊真言 おん あびらうんけん ばざらだとばん
 - * 山号・大沢山 * 宗派・真言宗（高野山金剛峰寺・末）
 - * 草創・1532-55（天文年中）
 - * 庭園に古い石碑が数多く有ります
 - * 明治初期頃の豆国（伊豆）八十八ヶ所霊場を彫り入れた版木が貴重な資料として保管されてます。
- こちらのお寺で所蔵している、明治時代の“版木”が基で伊豆八十八ヶ所霊場の遍路が再興しました。

●七番札所 泉龍寺（せんりゅうじ）

- * 本尊・聖観世音
- * ご本尊真言 おん ありるきや そわか
- * 山号・東岳山 * 宗派・曹洞宗（修禅寺・末）
- * 草創・1500（明応九年）
- * 本堂は昭和の築ですが庫裏は天保12年(1841)の物です。開創から160年間は真言宗に属し、その後荒廃し1667（寛文七年）曹洞宗として復興される。
- 本堂の前 灯明台の踏石下に四国霊場から持帰ってきた（砂？石）があります。
- * この寺の先代住職 丹羽圓宗師（隠居してます）が「伊豆八十八ヶ所霊場」の著者です。
- * 涅槃堂は本堂のすぐ横にあります。

距離 2.5Km+8Km+6.5Km+1.5Km+3Km=約22Km

タイム 下土狩5:30-あいらんど発6:45-最勝院6:50~7:00-城富院7:35~7:45-玉洞院9:40~10:05-金剛寺11:45~13:00-泉龍寺13:15~13:30-益山寺入口14:30（平日）

温泉 11日=伊豆長岡「光林」700-（平日団体割引650-）

経費 玉洞院=1000-、金剛寺=1000-

参考資料 「伊豆霊場振興会」HP

前回終了地、たまご直売店「あいらんど」から最勝院に向かう。心配された天気はまあまあ。大見川に沿って北下する。朝の冷気が心地よい。何処かの方が寺の近道を教えてくれたが、正しく参道から入境。今日は寺にお客が多数来るのでお勤めは外。ご朱印もサポーターのI藤さんが13時に貰いに来る。

大見川は、八幡地先で冷川と城川が合流する。城富院は城川上流なので、右折し東

に向かう。田圃・畑の田舎道をブラブラ上って行く。前回、ここに見事なスイカが実っていたが今日は見られなかった。

ほどなく、城富院に到着。長い階段を上って山門を潜る。この階段、雨の時は滑るので要注意。



最勝院



城富院

本堂でお勤め。ここの住職は病気で不在。奥様も不在。関連寺の方が境内の掃除かたがた来てくれた。

再び八幡地先に戻る。次は玉洞院。修善寺に向かって行くと、白岩に国指定史跡の「白岩遺跡」があった。約4000年前、ここに縄文時代中期から後期の縄文集落があったとのこと。例の藁葺きで円錐形の復元家屋があり、中に入ると結構広く、快適そうだった。

修善寺駅裏を通過。ここから駿豆線・伊豆箱根鉄道の牧之郷（まきのごう）駅脇を抜けて玉洞院に到着。



お話を聞く

吉岡住職



急な階段を上り、山門を潜る。正面の本堂は鉄筋コンクリート製。住職は若い吉岡宏之（48）。名前は「コーシ」と読むそうです。父である、先代の英春住職は、教

師を兼務していたそうで、前回巡礼のO（オー）さんは、この方に学んだと話していた。84歳で亡くなった先代住職の「遺偈」（ゆいげ・禅僧が末期（まつご）に臨んで門弟や後世のためにのこす偈）が柱にあった。住職は歯が綺麗な方だった。

ここから大仁方面に向かう。2年前、竣工した新大仁橋を渡る。ここの山は「水晶山」。眼下の狩野川で鮎釣りが盛ん。「百笑の湯」から熊坂に向かう。熊坂は昭和33年、狩野川台風に襲われ未曾有の被害が出た中心地。道路脇に「浸水標識碑」があり、高さ2m27cmまで水没したと記されていた。私は当時、11歳だったが田方平野が一面、泥の海だったことを覚えている。

この先で左折し、山田川に沿ってダラダラ上っていく。時間的に腹が減って腹が減って辛いところ。程なく七番札所・泉龍寺前を通過するが、更に上の金剛寺を目指す。お腹が限界の頃、金剛寺に到着。

金剛寺は「立派なお寺」と言うより、普通の民家の感じ。住職は不在で大ババさまの杉本ふみ（88）さんと娘さんが、寺を守っている。お勤めを済ませ昼食にする。



左・杉本ふみさん（2009年撮影）



明治初期の八十八札所版木

ここには有名な明治初期の伊豆八十八札所の版木がある。これで伊豆札所巡礼が再興したと言われている。今回ババさまは外出で不在。ここで2009年温かい「お接待」を受けた。出してくれたものは、「おしんこ・インゲン豆煮漬け」など。

お世辞にも「綺麗な」お寺ではないが、心はとても温かい。壁に「たらちめ湯」の看板があったが、これは昔、ここでやった「お灸」のことだそうです。2009年時、ババさまとのお話、、、

- ・・・その昔、結婚式があるから来いと言われた。ノコノコ行ってみると、それは「自分の結婚式」だった・・・
- ・・・その昔、高野山に「御詠歌」を指導する免許を取りに行った。その頃は、地域の皆で「御詠歌」を詠ったものです・・・

・・・その昔、初恋の人が居た。彼は特攻隊員だった。出撃するので、鹿児島・知覧に見送りに行った。昭和20年8月10日、彼は南の海に消えた・・・

話は尽きなかったが、1時間ほど休んで再び出発。外はカンカン照りだった。泉龍寺はすぐ近く。ここには珍しい「涅槃仏」がある。お釈迦様を撫でて願いを掛ける。ここは靴で上がってはいけない。

・・・ほとんどの涅槃像は、右手を枕とするか、もしくは頭を支える姿である。基本的には、頭は北向き、顔は西向きとされる。これが後に、一般の俗人が亡くなった時に「北枕」とされる由縁となった。また、釈迦の像には、誕生時の像、苦行時の像、降魔（ごうま。悟る直前）の像、説法している時の像などいろいろなものがあるが、大別して立像・坐像・涅槃像の3種類があり、一説に立像は「出山（しゅっさん）の釈迦」に代表されるように、いまだ修行中で悟りを開く前の姿、坐像は修行して悟りを開かんとしている時（あるいは開いた直後）の姿、そして涅槃像はすべての教えを説き終えて入滅せんとする姿を顕すとされる。また涅槃像には、目が閉じているものと、目が開いているものがあり、目を閉じた涅槃像は、既に入滅した姿で、目が開いている涅槃像は最後の説法をしている姿を顕しているといわれる・・・
(関連 HP から転載)



涅槃仏



たらしめ湯の看板

本堂でお勤め。珍しく住職夫婦がいらした。ここから益山寺に向かう。途中の採石場の騒音が酷い。

益山寺は標高約300mの高台にある。前回はなかなか大変だった。今日の巡礼は入口で終了。分割すれば少しは楽でしょう。本日はご苦労様でした。

合掌



山田川地先



泉龍寺



泉龍寺住職



6月平日
泉龍寺

